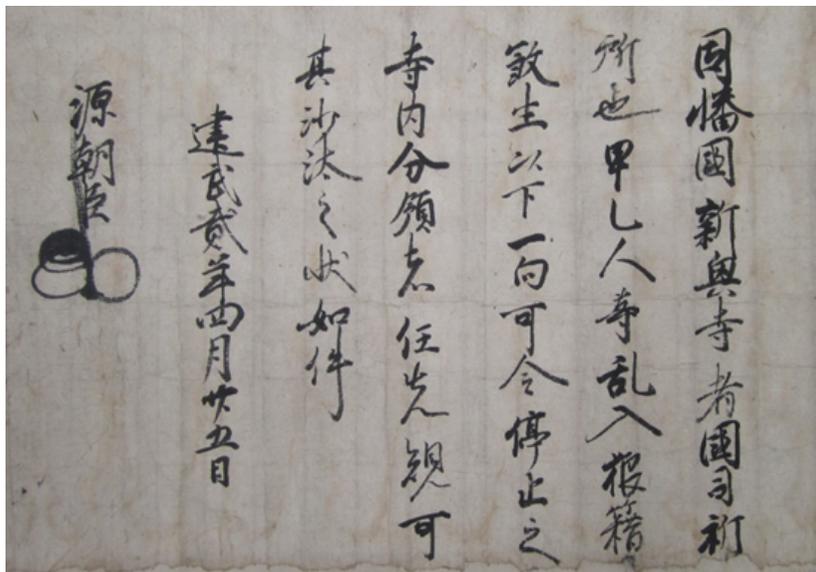


けんむ しんせい なわながとし
建武の新政と名和長年の活躍



名和長年安堵状(『新興寺文書』)★

解説

■名和長年の活躍

名和長年^{なわながとし}は伯耆国^{なわのしよ}の名和庄(大山町名和)の地頭で、日本海海運にも関わる有力な武将であった。鎌倉幕府打倒に失敗した後醍醐天皇^{ごだいご}が1333(元弘3)年に隠岐から脱出して伯耆国に到着すると、天皇に味方して、船上山^{せんじょうざん}(琴浦町)に城を構え、幕府軍と戦って、勝利を収めていく。



伝名和長年像(長谷川等伯作)
(東京国立博物館デジタルアーカイブ)

鎌倉府滅亡後、後醍醐天皇は光厳天皇^{こうごん}を廃して、建武の新政^{けんむ しんせい}を始めた。戦功をあげた名和長年は、後醍醐天皇の側近として、建武の新政に参加し、重要な政務を担う記録所^{きらくしょ}や所領の問題等を扱う雑訴^{ざつそ}決断所^{けつだんじょ}などの役人を務めたほか、因幡守と伯耆守に任じられていく。

■全国的に少ない名和長年の発給文書

この資料は、八頭町^{はつごうじ}の新興寺が所蔵する古文書で、名和長年が新興寺に対して、乱暴狼藉^{らんぼうろうぜき}や殺生^{せつじょう}の禁止と寺領の保証を定めたもの。名和長年の花押(自筆のサイン)の記された古文書は全国で4点しか見つかっておらず(鳥取県内はこの1点のみ)、貴重な資料である。



名和長年戦死の地
(京都市上京区：名和児童公園)

その後、足利尊氏^{あしかがたかうじ}が後醍醐天皇と対立すると、長年は天皇方として尊氏と戦うが、1336(延元元)^{えんげん}年に京都の三条猪熊の地で戦死した。その場所は現在公園となっており、長年の顕彰碑が立っている。

(担当：岡村吉彦)

【意訳】

因幡国新興寺は国司の祈禱所なので、今後、いかなる者も乱入・狼藉・殺生などは禁じる。寺領は保証する。

建武二年四月二十五日

源朝臣(名和長年)(花押)

【読み下し文】

因幡国新興寺は、国司祈禱所なり。甲乙人等乱入・狼藉・殺生以下、一向これを停止せしむべし。寺内分領は、先規に任せ、その沙汰すべくの状、くだんの如し。

建武二年四月二十五日

源朝臣(名和長年)(花押)

*祈禱所：将軍・大名や天皇・公家がそれぞれ祈禱を命じる指定寺院

参考資料

- ・鳥取県『新鳥取県史資料編 古代中世1 古文書編』(2015年)
- ・東京国立博物館研究情報アーカイブズ